

1月定例記者会見

平成27年1月5日(月) 午後1時～
ハイトピア伊賀 4階 ミーティングルーム

1. 市長からの発表

(1) 新年を迎えて

今年は、市制10年を過ぎた伊賀市にとっては、市政百年の大計の元年であると考えています。今年はいろいろとやるべきことを形に見せてくる年であります。

庁舎については、いよいよ実際に動きが始まるわけであります。これが新しい庁舎のパスです。5階建て鉄骨造りです。

もう一つは、南庁舎の利活用をまとめていかなければならないということです。と言いますのも、3月には中心市街地活性化計画を国へ上げていかなければなりません。中活計画のポイントは、いかに民間活力を統合した計画にするかということです。そういう意味で、賑わいづくりのセンター、拠点として、南庁舎の改修、利活用計画を進めていかなければなりません。これを進めていかなければ市街地の活性化、伊賀地域の活性化はなかなか難しいのではないかと思います。

それから、6月にはミラノ万博の出展があります。これがミラノ万博のポスターです。このミラノ万博に日本が出展し伊賀市も出展します。世界に打って出るきっかけにしたいと思えます。

観光という話をしましたが、毎年、1,000人ずつぐらい人口減少がこの地域では言われていますが、自然増に期待するだけでなく、社会増の対処をしていかなければならないのが大きな政策的課題であると思っています。

今日の賀詞交歓会でも商工会議所の会頭が、そうしたことに取り組んでいきたい、また官民協働が必要であるとおっしゃっておりました。私も予てより、行政と商工会議所等々が車の両輪の関係を持って活性化していくことが必要であると申し上げてきましたので、これからそのような方向性で進んでいけるのではないかと期待をしているところであります。

(2) 着地型観光「伊賀ぶらり博覧会 いがぶら」の実績報告について

昨年10月から11月にかけて、市内各地で「伊賀ぶらり体験博覧会 いがぶら」を開催しましたが、無事終了させていただくことができました。パートナーの皆さんや、ご参加いただきましたお客様、「いがぶら」に関わっていただきました多く方のおかげと感じています。あらためましてお礼申し上げます。

今回の実績ですが、全108つのプログラムの内、84が催行され、総勢1,531人の方に参加いただきました。その中で、アンケートにご協力いただきました943件から内訳を申し上げますと、参加者のおよそ70%が女性の方でした。年代別で見ますと、30代から60代の方が概ね20%前後となっており、この年代の方で全体の80%を占めました。

参加された方を住所別で見ますと、伊賀市が64%、続きまして名張市が13%となっております。

す。伊賀地域外の県内では、津市がおおよそ 50%となりました。県外で見ますと、大阪、京都、奈良などの関西圏がおおよそ 80%、愛知県など東海圏が 10%となりました。市外では、近畿日本鉄道様に鉄道沿線での告知にお力添えいただきましたほか、三重県をはじめ他市町の観光関係の方にもお力添えいただくことができました。

なお、伊賀市内の方が多数ご参加いただけましたことは、「いがぶら」実施にあたり、地域の皆さんご自身が地域の魅力を再発見する絶好の機会ととらえていただくという目標を達せられたのではないかと思います。

今回、残念ながら催行されなかったプログラムもありますが、来年度はパートナーの方とともに、さらに魅力あるプログラムをご提供できるよう努めていきます。

また、天神祭のバックアップなど、お祭り関連の「いがぶら」も、ぜひ考えただけたらと思っています。

(3) 災害対応図上訓練の実施について

災害対応を指揮する職員を中心に地震発生を想定した図上訓練を行います。この訓練は地震発生から 2 時間後までの地震災害初動期の具体的なイメージを持ち、今後の災害対応を考えることを目的とするものです。

実施する日時は平成 27 年 1 月 19 日午後 1 時から 5 時まで、場所はハイトピア 5 階多目的大研修室と学習室。参加する職員は災害対策本部長である私と副本部長である副市長を含め、86 人のプレーヤーと、コントローラーとして三重県職員の協力をいただくとともに、消防職員を含め 10 人が当たることとしています。

訓練では、コントローラーからプレーヤーに地震による想定被害の状況を伝え、プレーヤーが役割に応じて対応していくということです。

この訓練を通じてそれぞれの立場からハード面、ソフト面においてどのような課題があるかを検証し、効果的な災害対応に結びつけることを期待するものです。

(4) 伊賀市の賑わい創出に向けて (第 1 回)

～課題と可能性を探る～「坂倉準三学習会」の開催について

伊賀市庁舎を核とした上野丸之内の風致がもたらす文化的価値に触れ、現庁舎を保存し活用することが伊賀市の将来を担う賑わい・交流の拠点につながることを少しでも多くの市民の皆さんと共有したいと考えています。伊賀市の賑わい創出に向けて、専門家を交えた学習会や市民の皆さんと行政との意見交換を 3 回開催する予定です。

第 1 回目として、伊賀市職員提案制度により提案のあったものですが、「坂倉準三学習会」と題して行います。

当日は 2 部構成として考えており、第一部では、講演会と対談によりまして、伊賀市南庁舎が持つ坂倉建築及びモダニズム建築としてのよい特徴を歴史的建築の再生とモダンムーブメントの建築および建築家に詳しい鹿児島大学の鯨坂教授に学んで、保存することの意義等を多くの市民と共有したいと考えています。また、先生からは、各地にある名建築を改修利用し地域の活性化に使用している例についても紹介していただく予定です。

講演のあと、三重大大学の浅井准教授のコーディネートによりまして、鯨坂先生と対談させていただき時間を設けております。先生からももう少し詳しくお話を伺うことができればと思っています。

また、第二部では、フィールドワークとしまして、伊賀上野町家みらいセンター会長で1級建築士・伊賀市文化財保護審議会委員の滝井利彰さんの案内により、南庁舎の見学会を行う予定です。

今回の学習会は、日本建築家協会東海支部に共催いただきました。また、DOCOMOMO Japan、三重県建築士会伊賀支部、伊賀の建築文化を考える会から後援をしていただく予定です。

(5) コンビニ交付サービスの開始について

伊賀市では、住民サービスのさらなる向上のため、平成27年2月2日（月）から、「コンビニ交付サービス」を開始します。

コンビニ交付の開始に伴い、伊賀市役所玄関前に設置の証明書等自動交付機は、平成27年2月1日をもって運用を終了します。

コンビニ交付サービスは、利用者登録をした住民基本台帳カードを活用して、全国のコンビニエンスストア（セブン・イレブン、ローソン、サークルKサンクス、ファミリーマート）において、店内に設置された多機能端末機（マルチコピー機）から、住民票の写しや印鑑登録証明書などの交付を受けることができるサービスです。

コンビニ交付サービスの開始にあたり、セレモニーを開催し、実際に店内設置のマルチコピー機から証明書を発行するデモンストレーションを行い、コンビニ交付サービスの利便性を周知したいと考えています。

（秘書課長）伊賀市の賑わい創出に向けてについてですが、これは3回シリーズで行われますが、その前段として、これまでの経緯や概要について市民の皆様方に知っていただく機会を設けるということで、来週1月14日（水）、19時からハイトピア伊賀5階で、説明会を開催する予定をしています。題名や内容については、決まり次第、記者室へ投げ入れさせていただきますのでPR方ご協力をお願いいたします。

2. 1月の主な行事予定について

(1) 平成27年伊賀市消防出初式

日時：1月11日（日）午前8時～

場所：ゆめドームうえの

内容：通常点検、優良消防団員表彰、防火の誓い（幼年消防クラブ員）、車両観閲など

※一斉放水は各分団で実施します。

問い合わせ先：消防救急課（24-9115）

(2) 平成 27 年成人式 (資料No.6)

日時：1月11日(日) 受付 午前11時～(島ヶ原地区のみ午前10時30分～)

開式 午前11時30分～

場所：崇広中学校区：ハイトピア伊賀5階

城東中学校区：前田教育会館蕉門ホール

緑ヶ丘中学校区：ヒルホテルサンピア伊賀

上野南中学校区(旧成和・丸山中学校区)：ゆめぼりすセンター

柘植・霊峰中学校区：ふるさと会館いが

島ヶ原中学校区：島ヶ原温泉多目的ホール

阿山中学校区：あやま文化センター

大山田中学校区：どんぐりホール

青山中学校区：青山ホール

内容：別紙のとおり

問い合わせ先：教育委員会生涯学習課(22-9679)

(3) 第55回伊賀地区駅伝競走大会(資料No.7)

日時：1月25日(日)

開会式 午前8時20分～(ゆめドームうえの)

男子スタート 午前10時～、女子・中学男女タート 午前10時10分～、

閉会式 午後0時45分～

コース：男子 6区間23km、女子・中学男女 5区間13.2km

問い合わせ先：スポーツ振興課(22-9635)

(主な質疑応答)

(記者) 成人式の分散開催の意義と評価についてお尋ねします。

(市長) 分散開催というよりも地元開催ということです。成人式は、子どもたちが地域の中から大人の世界へ社会人として旅立つということです。そのことを新成人は地域に、また保護者の方に感謝して、これからの決意を地域の方々にしっかりと示す、また、地域の方々は新成人を心から迎え入れ、みんなでお祝いをする。そうした意義というものが、これからのまちづくりの基礎になると思います。それが成人式の根本であろうと思っています。

今年2回目を迎えますが、地元の方々や昨年経験された先輩が今年はサポーターとなって、新成人の開催グループを支援する、そうした良い循環ができてきたのかなと思います。これからも地域に根差した成人式の意義をもう一度認識していただくことが大事であると思っています。

(記者) 一か所に集まって開催すると、いろんなことがあったということ念頭において地元開催にしたということですか。

(市長) 就任まもなく成人式に出席させていただきましたが、これが成人式かと疑わしい状況でありました。貴重な税金を使ってやらなければならないのか、その意義については大いに疑

間を感じました。今の形が、成人式は何なのか、成人するということはどういうことなのか、しっかり考える機会になっていると思います。

(記者) 昨年は良い成人式であったということですか。

(市長) 参加された方も結果として良かったとおっしゃっています。また、感動的な場面もあったと聞いています。私も心のこもった大変良い成人式であったと思っています。

(記者) コンビニ交付についてですが、自動交付機が名張駅のほうに無かったですか。

(住民課長) 名張駅東口の自動交付機は、名張市の交付が1月31日で終了することから1月31日で終了します。

(記者) 住基カード全体の発行枚数とコンビニ交付ができる住基カードの発行枚数はどれくらいですか。

(住民課長) 26年11月末現在で、有効な住基カードの発行枚数が5,301枚です。そのうちコンビニ交付ができる機能が付いているものは3,443枚です。

(記者) 市民センターで交付サービスをされていますが、それはどうなりますか。

(住民課長) FAX を利用した市民センターでの交付は、今後どうしていくか検討していくという状況です。

(記者) 2月2日からコンビニ交付が始まりますが、市民センターでの交付は引き続き続けるということですか。

(住民課長) そのとおりです。

(記者) 伊賀市の人口は何人で、交付率はどれくらいですか。

(住民課長) 26年11月末で人口が95,836人ですので、住基カードの発行率は5.5%になります。

(記者) 普及啓発に力を入れなければならないと思いますが、今後の啓発対策はどうですか。

(住民課長) コンビニ交付を開始するに当たり広報紙で周知しています。今後、ケーブルテレビ、チラシ、ポスター等で啓発を図っていきます。

(記者) 市役所玄関前の交付機については更新費用がかかるということで、経費を考えてということでしょうか。

(住民課長) 自動交付機が導入から6年を迎え、入替を検討する中で、市民サービス向上や将来的な経費の負担減も考え、コンビニ交付の導入に至りました。

(記者) コンビニ交付の機械導入によって経費の負担はありますか。

(住民課長) コンビニに設置されているキオスク端末というコピー機の導入管理はコンビニになります。コンビニに対しては、証明書1件当たり123円の委託手数料を支払うこととなります。

(記者)後日で結構ですので、行政で設置した時の費用と年間の維持管理費を教えてください。これまでいくらかっていたか、これからいくらかかるのか教えてください。

(住民課長)わかりました。

(記者)伊賀市内で利用できる店舗は何件ありますか。

(住民課長)こちらで把握している店舗数は市内に31店舗あります。

(記者)賑わいの創出の学習会は、第2回、第3回は決まっていますか。

(中心市街地推進課長)第2回、第3回は開催する予定ですが、日程は決定していません。

(記者)テーマはどうですか。

(中心市街地推進課長)テーマは仮称ですが、「賑わいのある集客施設と公共施設、公益施設を考える」ということで考えています。

(記者)2回、3回は年度内ですか。

(中心市街地推進課長)年度内を考えています。

3. その他 (主な質疑応答)

(記者)南庁舎の利活用については、昨年の議会で予算が修正されましたが、年を明けて市長はどのように感じておられますか。また、今後どのようにしていきますか。

(市長)年末年始、議員の皆さんには、これからの中心市街地活性化に向けての事業策定のタイムリミットがある中で、今後、至急考えなければいけないという思いを巡らせていただけたのではないかと考えています。その必要性を認識していただけるようにしていきたいと思っています。

(記者)1月14日の説明会は昨年末の議会を受けてですか。

(市長)そうです。

(記者)いずれ同様の議案が必要になると思いますが、今後、臨時議会など具体的な計画はありますか。

(市長)これから、いろんな勉強会もありますので、ご理解を深めていただきながら、もう一度お考えいただけるのかどうか。臨時議会なのか、3月議会なのか、分かりませんが、勇気をもって臨まなければなりません。

(記者)庁舎の完成予想図についてですが、応募されてきたものは鉄骨造ですか。

(財政部次長)鉄骨造りです。①伊賀市の歴史性や文化性、市民の誇りや愛着を受け継いでいく庁舎、②市民の安全・安心な暮らしを支える防災拠点となる庁舎、③環境にやさしい庁舎、の3つのテーマに対して設計業者が独自に提案してきました。今後、市民の皆さんの意見を聴

く中で変更はあります。

(記者) 坂倉建築をイメージしていますか。

(市長) 坂倉建築かどうかわかりませんが、伝統的な町のたたずまいを考慮されたのかなと思います。建設費を抑える工夫もされているようです。

(記者) 業者は何社ですか。

(財政部次長) 7社です。

(記者) 審査結果はどうですか。

(財政部次長) テーマに対する提案はしっかりとクリアしていました。具体的には、工期を短縮するという提案です。上にあがるほど工期が長くなりますが、それが5階であったこと、それとワンフロアが広いということ。それと上野市街地への誘導ということも提案に盛り込んできていました。

また、休日は駐車場にしてシャトルバスなどで観光客を誘導するという提案をしていましたので、このあたりが審査員の評価が高かったということです。建設コストの更なる削減もプロポーザルの中でおっしゃっておられました。